



株式会社ウェッジホールディングス
2010年7月
個人投資家向け会社説明会

2010年7月2日

株式会社ウェッジホールディングス

代表取締役社長 田代宗雄

CONTENTS

■ 企業と事業の概要

- 企業概要
- 沿革
- APFグループについて
- 事業領域
- 投資育成事業
- ファイナンス事業
- コンテンツ事業
- 物販事業

■ 過去3年間の取り組みと成果

- 2007年までの経営状況
- 黒字転換と東南アジアへの事業拡大
- 売上高と利益水準の推移

■ 2010年9月期中間期の業績と財務状況

- 2010年9月第2四半期累計 連結経営成績(P/L)
- セグメント別売上構成(前年同期比較)
- 2010年9月期第2四半期 連結財務状況(B/S)前期末からの推移

■ ファイナンス事業の特徴について

- グループリースのビジネスモデル
- グループリースの強み
- 競合比較
- タイの政治・経済情勢の影響について

■ 現在の事業方針と戦略の実行

- The Asian Value Innovator
- 投資育成事業での施策実行
- ファイナンス事業での施策実行
- コンテンツ・物販事業での施策実行
- トピックス 持続的な成長を目指して
- トピックス 全社員にiPadを賞与支給
- 当社グループの今後の課題

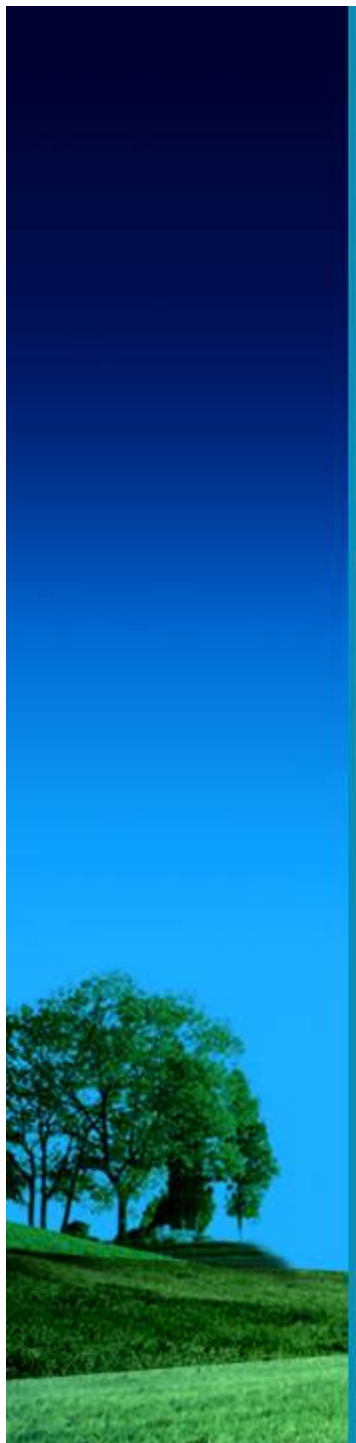
■ 業績予想と株主還元について

- 今後の事業拡大イメージ
- 2010年9月期通期業績予想
- 株主還元に関する方針

企業と事業の概要

企業概要

- ・ 会社名: 株式会社ウェッジホールディングス
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)
 - 設立: 2001年10月(決算期 9月)
 - 資本金: 1,839,143,700円
 - 上場市場: 大阪証券取引所 ヘラクレス市場
 - 代表者: 代表取締役社長 田代 宗雄
 - 本社所在地: 東京都千代田区神田錦町一丁目1番地
神田橋安田ビル4階
 - グループ従業員: 296名 (2009年3月31日現在)
 - グループ会社
 - 株式会社ウェッジホールディングス(日本)
 - » 2010年7月1日、国内主要子会社を吸収合併により統合しました
 - Engine Holdings Asia PTE (シンガポール)
 - Group Lease PCL(タイ)



沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
 - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場に株式上場
 - » 翌年にかけて、コンテンツ事業、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大
- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
 - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
 - » 業績不振で2007年9月期まで3期連続の赤字が続く
- 2007年9月 第三者割当増資によりAPFグループが筆頭株主に
 - » 2007年12月 経営体制刷新、経営改革に着手
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化、新たにファイナンス事業セグメントを設置
- 2010年7月 国内子会社2社を吸収合併

APFグループについて

- ・ 東南アジアを中心に基盤を持つ投資グループ
 - 1997年タイ王国におけるバーツ危機を契機に、東南アジアで不動産・企業への投資事業を拡大し基盤を確立
 - 東南アジア各国で本来の価値よりも価格が下がっている資産に対するバリュート投資を通じ成長



<http://www.apfgroup.net>

名称

アジア・パートナーシップ・ファンド
ASIA PARTNERSHIP FUND (APF)

本部

タイ王国 バンコク
33/125 Wall Street Tower 25th Floor, Surawong Rd., Suriyawong,
Bangrak, Bangkok 10500, Thailand

代表

此下 益司(このした みつじ)

事業開始年度

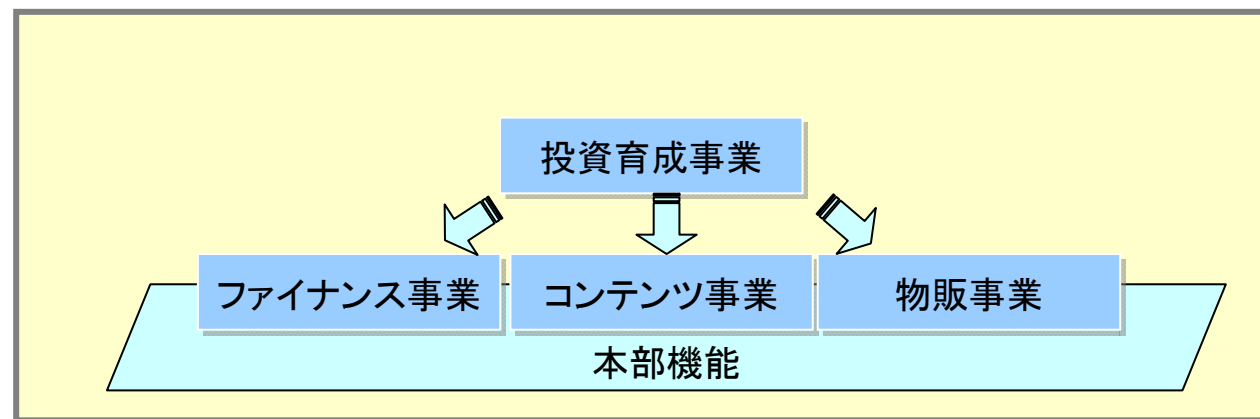
1981年1月

運用資産

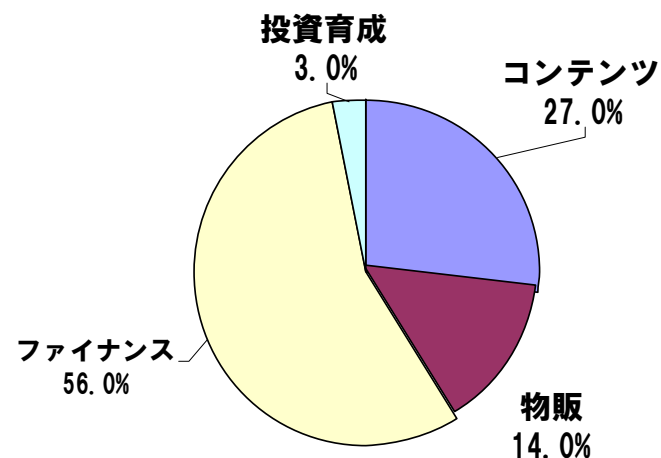
約1200億円(2009年12月現在)

事業領域

- 4つの事業セグメント
 - 投資育成事業：国内外への優良資産・有価証券等への投資
 - ファイナンス事業：東南アジア、タイのオートバイリース事業
 - コンテンツ事業：カードゲーム、書籍、音楽等の制作・流通
 - 物販事業：海外キャラクター商品の卸売・小売・Web通販



セグメント別
売上高比率
(2010年度上半期)



投資育成事業

- ・ 各事業領域に新たなビジネス創出を担う成長の核
 - 小型の短期投資案件で投資収益を確保
 - 2010年3月は東南アジアのリゾート会社の債券引受を実施
 - 東南アジアへの投資機会を今後も継続的に検討

上半期売上高： 55百万円
営業利益 ： 29百万円



2009年3月に投資育成事業が
株式転換権付債券引受を行なった
リゾート会社保有のホテル
(タイ・ピピ島)

ファイナンス事業

- ・ 東南アジア、タイで事業展開する子会社Group Lease PCL(グループリース)のオートバイリース事業
 - タイ証券取引所1部上場(コードGL)
 - 高収益商材であるオートバイリースに特化、人口集中地域である首都バンコク中心で、日本メーカー製オートバイを主に取り扱う

上半期売上高:10億48百万円
営業利益 : 4億24百万円



コンテンツ事業

- 当社グループの創業事業である編集、出版関連事業とカードゲーム事業を中心に展開
- 音楽CD製作、配信を手がける子会社株式会社スピニングも2010年7月1日に吸収合併、事業部として統合。

上半期売上高： 5億 5百万円
営業利益 : ▲57百万円

ブレインナビ事業部 製作書籍
(編集・出版部門)

『ロックマン ギガミックス』



『議員と秘書』



(当社出版書籍)

ゲームクリエイティブ事業部
(カードゲーム部門) 制作ゲーム



TCG Chaos



TCG アリス×クロス

(C)株式会社ブシロード

物販事業

- フィギュア商品等、米国ブランド玩具を中心にした大手正規輸入代理店
- 卸売をはじめWeb通販を中心とした小売、OEMも手がける
- 子会社株式会社エンジンを7月1日に吸収合併したことから、事業部として再スタート

上半期売上高： 2億62百万円
営業利益 : ▲11百万円

エンジン事業部(物販部門) 取り扱い商品例



The A-Team – 3.75 Inch Action Figure
(特攻野郎A-Teamフィギュア)



Star Wars – 1/4 Ultimate Figure:
Darth Vader (フィギュア)

過去3年間の取り組みと成果

2007年までの経営状況

2005年以後、3期連続で赤字に

- 2004年に上場後、3期連続で5億円以上の当期純損失が続く
 - 多額の特別損失の発生
 - 3期連続の損失で企業の継続前提に疑義の注記
- 経営管理に課題
 - コンテンツ投資の失敗
 - 物販での在庫評価損
 - M&Aの結果、連結経営体制の不備での混乱

2007年12月、新体制で経営改革を開始

新たな経営陣が加わり新体制のもとで改革に着手

- 経営管理：コンテンツ投資評価、法務体制の強化で事故を防ぐ
- 事業支援：既存事業に本部から挺入れ収支改善
- 事業再編：既存事業の再編と新たな収益源創出へ取り組み



黒字転換と東南アジアへの事業拡大

2008年9月期、4期ぶりの黒字転換

- ・ 経営管理水準の向上により損失を最小化
- ・ カードゲーム事業などの収益事業が伸張、黒字化

2009年9月期、東南アジアに事業拡大、最高益更新

- ・ 2009年2月、シンガポールに投資事業子会社Engine Holdings Asia PTEを設立、東南アジア事業拡大の基盤に
- ・ 2009年7月、タイ王国のGroup Lease PCLを連結子会社化、新たにファイナンス事業として事業領域拡大
- ・ 不採算事業の圧縮や固定費圧縮にも注力し利益拡大

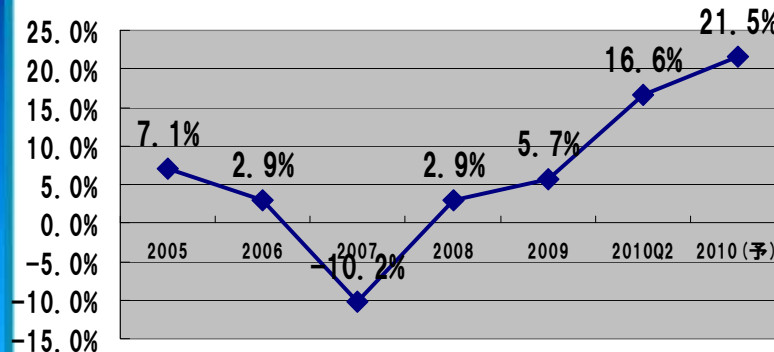


売上高と利益水準の推移

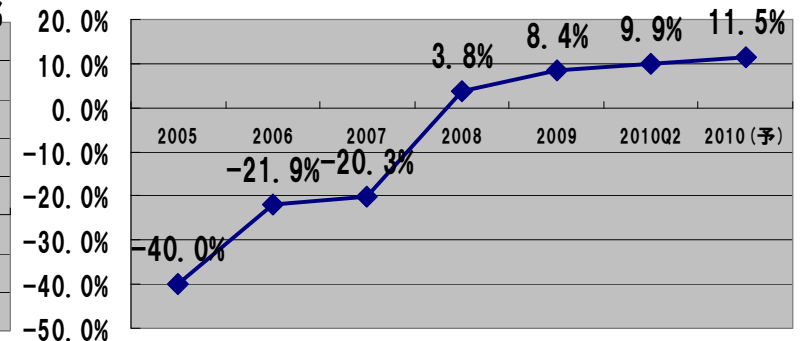
(単位：千円)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010 (予想)
売上高	1,337,059	3,277,380	2,593,505	2,139,054	2,417,459	3,900,000
営業利益	94,320	96,373	-265,347	62,321	137,362	840,000
経常利益	94,625	92,316	-273,791	146,164	322,026	800,000
当期純利益	-534,746	-717,671	-525,337	81,518	204,089	450,000

売上高営業利益率



売上高当期利益率



- ・改革を進めた2008年以降、収益性は着実に伸張、2009年は税引き後当期純利益が約2億円と最高益に
- ・2009年4Qより子会社化したファイナンス事業の高収益性が貢献、フル連結される2010年9月期は営業利益率20%超を予想



2010年9月期中間期の 業績と財務状況

2010年9月期 第2四半期累計 連結経営成績(P/L)

(単位：百万円)

	2009年 Q2累計	2010年 Q2累計	増減	増減率	2010年期初 Q2業績予想	期初 予想比
売上高	901	1,871	970	107.7%	2,000	93.6%
営業利益	▲ 43	310	353	-	280	110.7%
経常利益	29	291	262	903.4%	270	107.8%
四半期純利益	8	185	177	2212.5%	60	308.3%

	2009年9月期 Q2	2010年9月期 Q2	増減率	(ご参考) 2009年9月期 通期実績
一株あたり四半期純利益	115.14	882.15	666.2%	1,673.25
潜在株式調整後一株あたり四半期純利益	-	757.57	-	1,627.39

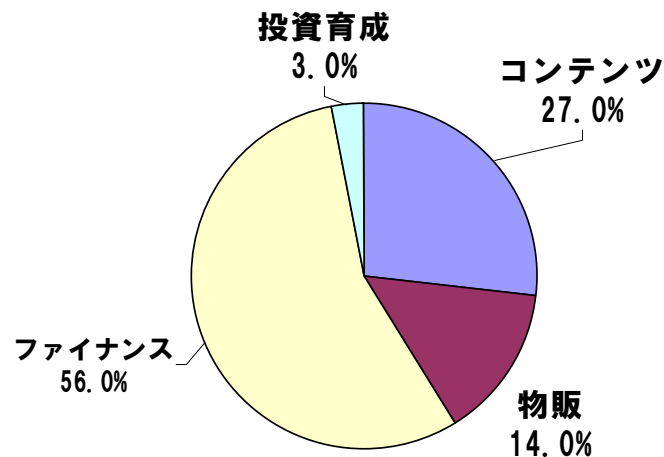
- ・ファイナンス事業の連結効果により前年比で**売上は倍増**
- ・ファイナンス事業の収益性伸張と、子会社株式売却益等から各段階利益とも期初予想を大幅に上回り、
3月に業績見通しを上方修正
- ・一株あたり純利益でも大幅な伸長。株式数増加の影響をこなす

セグメント別売上構成(前年同期比較)

(単位：百万円)

	2009年9月期 第2四半期累計売上		2010年9月期 第2四半期累計売上		前年同期比 増減率
	金額	比率	金額	比率	
投資育成事業	26,824	3.0%	55,893	3.0%	108.37%
ファイナンス事業	—	—	1,048,702	56.0%	—
コンテンツ事業	590,692	65.5%	504,973	27.0%	-14.51%
物販事業	284,433	31.5%	262,065	14.0%	-7.86%
(合計)	901,949	100.0%	1,871,634	100.0%	107.51%

セグメント別売上高比率 (2010上半期)



・国内コンテンツ事業の一部不振、物販事業の事業縮小による売上減をファイナンス・投資育成事業が補う

・ファイナンス事業・投資育成事業に含まれる**東南アジア売上高の構成は連結売上の56.7%に**

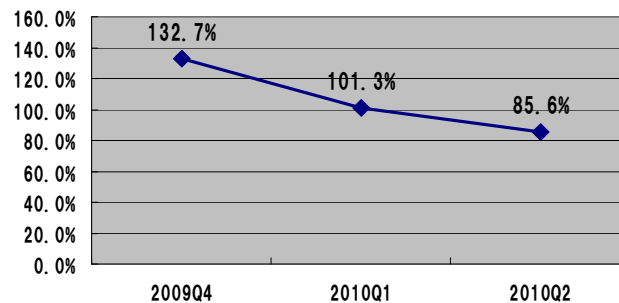
2010年9月期 第2四半期 連結財務状況(BS)前期末からの推移

	2009年Q4	2010年Q1	2010年Q2	対前Q比
流動資産	4,138,610	4,137,904	4,007,276	96.8%
固定資産	3,744,033	3,961,521	5,280,377	133.3%
資産合計	7,882,643	8,099,426	9,287,654	114.7%
短期借入金	2,148,483	2,170,243	2,263,121	104.3%
固定負債	1,521,106	1,188,846	1,191,268	100.2%
負債合計	4,082,228	3,811,436	3,906,558	102.5%
株主資本合計	2,760,784	3,146,259	4,028,072	128.0%
純資産合計	3,800,414	4,287,990	5,381,095	125.5%

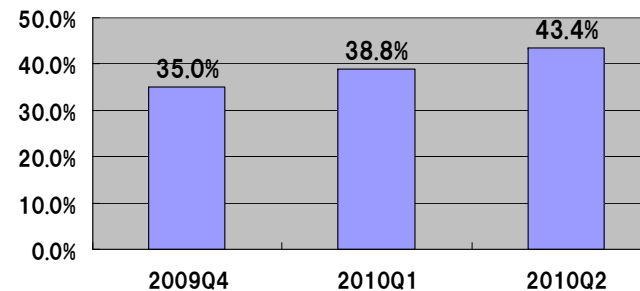
流動比率	161.6%	157.8%	147.6%
固定比率	135.6%	125.9%	131.1%
自己資本比率	35.0%	38.8%	43.4%
D/Eレシオ	132.7%	106.6%	85.6%

(単位：千円)

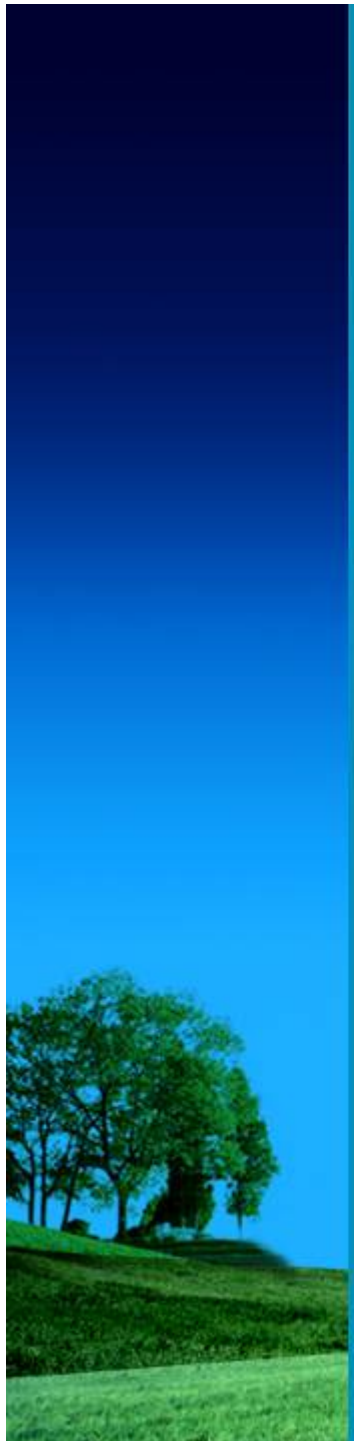
デットエクイティレシオ



自己資本比率



- ・グループリース連結子会社化により連結B/Sは大幅に拡大
 - ・2010年上半期は、発行済転換社債の転換(4億円)と3月実施の第三者割当増資(7億円)により自己資本が大幅に増加。
- 借入減少と純利益増加の影響からも安全性指標が一層向上¹⁹



ファイナンス事業の特徴

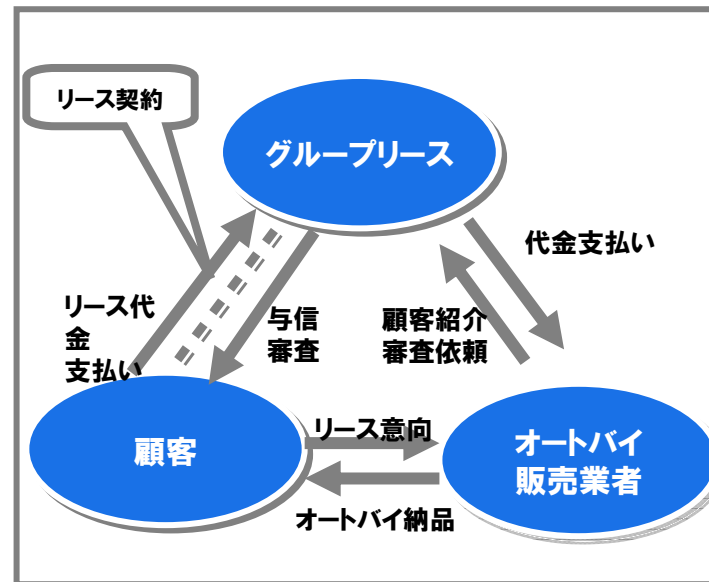
グループリースのビジネスモデル

各都市で営業するオートバイディーラーに担当者を派遣、
オートバイ購入者の紹介を受けることでファイナンスを提供

- 取り扱いオートバイの価格帯は日本にほぼ近い水準
- 一般的なリース契約期間は約23ヶ月間
- 主な顧客は若年層を中心とした一般ユーザーと、
オートバイタクシー事業を営む中小自営業者



上写真：
ビジネスパートナーであるオートバイ販売店



上写真：コールセンターの様子
新規契約審査や支払い手続き案内などを行なう



右写真：
販売店内に常駐する
グループリースの
サービススタッフ

グループプリースの強み

- 業務のシステム化とサービスの信頼性の高さに強み
 - スピーディで信頼度の高いクレジット承認プロセス
 - ・ 自社のシステム開発部門が開発した顧客・与信管理システムと効率化されたオペレーションで、1時間から1.5時間で審査を完了する洗練したサービスを実現
 - 競合他社は審査に数時間～数日かかるケースも。顧客は申し込み後ディーラー店舗内でオプション品等を選ぶ間に契約成立可能に
 - 迅速な支払手続きでディーラーから高い評価
 - ・ クレジット承認後、バイクディーラーへの支払が3日以内に終了
 - 競合は1週間程度。誠実なファイナンス会社としての評価確立に貢献。
 - 低い貸倒率を実現する回収プロセス
 - ・ 料金滞納顧客を4段階にカテゴライズし、各々のレベルで最適な回収行動を行うことで低い貸倒率を実現(わずか3～4%)
 - 新規参入者や競合は貸倒率が高く収益性の悪化を招いている

競合比較

- ・ 業界リーダーを凌駕する経営効率
 - バンコク市場でシェアNo.1のTitikorn PCL(タイ証券取引所1部上場 コードTK)と比較しても、経営効率の高さは顕著

2009年度データ	Titikorn PCL (市場シェアNo.1)	Group Lease PCL (市場シェアNo.4)
売上高	7,187	2,145
バンコク市場シェア (オートバイリース)	25.11%	10.54%
純利益	895	484
売上高販売管理費比率	56.7%	43.6%
売上高貸倒引当率	21.4%	15.6%
純利益率	12.45%	22.64%
ROE	12.00%	21.58%
ROA	7.27%	8.35%

販売管理費が低く、かつ
資産売却損が少ない

洗練された与信管理
と回収プロセスにより
貸倒が少ない

シェア上位の競合より
圧倒的高収益率を実現

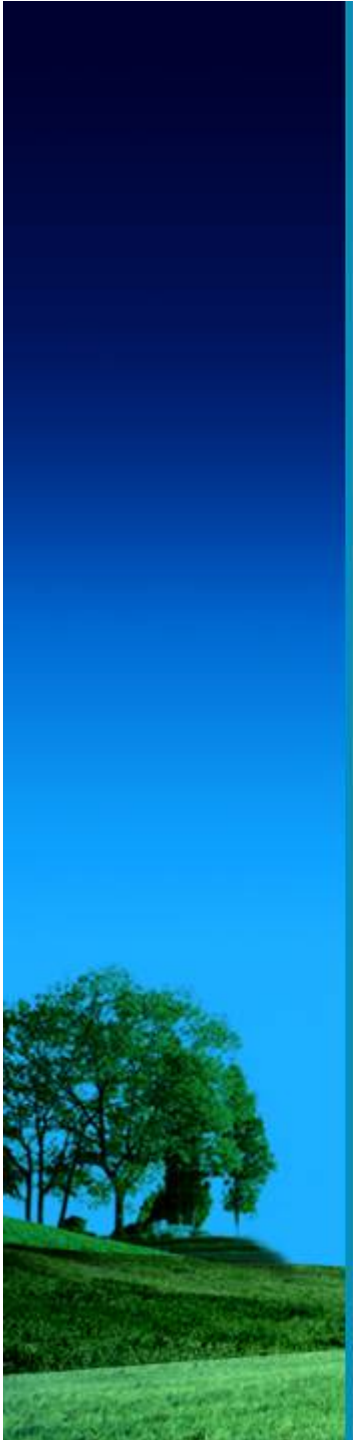
(単位：百万円)

※円換算レートとしては2010年1月～3月月末平均値である1バーツ2.68円を採用

出展：Titikorn PCL 2009アニュアルレポート

タイの政治・経済情勢の影響について

- 5月末でデモと動乱は收拾
 - 3月から続いたデモは5月一部の暴徒化により混乱拡大するも政府により鎮静化。政治的には今後も予断を許さないが、現政権の支持も安定し事態は收拾。
- タイ経済のファンダメンタルは堅調
 - 観光業など一部産業に影響は懸念されるが、総じて経済見通しは堅調。
 - 6月29日 タイ財務省は2010年GDP成長見通しを年4.5%から**5.5%成長に上方修正**
 - オートバイの販売状況は4月新車販売が前年比28%増 (APホンダ社)となる等、消費意欲も旺盛
- グループリースの事業への影響は限定的
 - 本社がバンコク郊外にあることから5月のデモ活動地域拡大や動乱の際も事業への影響は軽微



現在の事業方針と 戦略の実行

The Asian Value Innovator

- 2010年3月 東南アジアの事業拡大へ注力する事業方針を発表。
- 東南アジアでの事業基盤を強化し、日本からの新たな投資、事業開発、価値創出を推進、重点領域への経営資源投入を加速



スピード重視の経営

環境変化への迅速な対応で、成長市場のダイナミズムに打ち勝てるスピード経営を目指す

資源の重点配分

将来を見据えた資源配分を行い、持続的成長を果たすための企業文化醸成を図る

グローバル展開へ体制強化

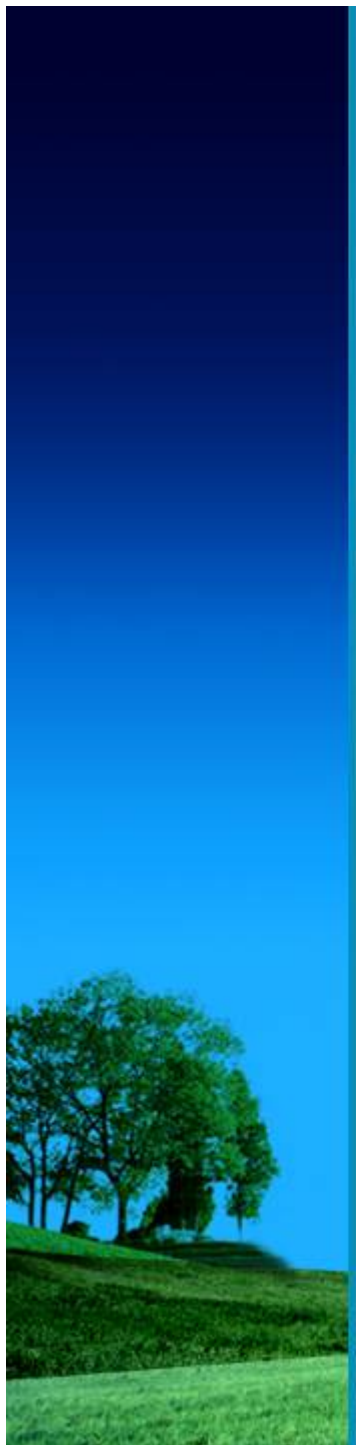
東南アジア在住の経営陣を中心に海外でのマネジメントとの連携を強化していく

投資育成事業での施策実行

投資拡大、経営資源を積極投下

- ・ 東南アジア リゾートホテル事業への投資を実行
 - ・ 3月9日、タイ、プーケットエリアにある高級リゾート Zeavola Resortの保有会社から無担保転換社債8億円の引受を発表。年間64百万円の利子収益を確保すると共に、社債転換により子会社化が可能に。
- ・ シンガポール子会社を大規模増資
 - ・ 4月27日、シンガポールの投資事業子会社Engine Holdings Asia PTEに対する貸付債権の転換による総額約16億7千万円の増資を実施。東南アジア投資の中核として財務基盤を強化。

今後も経営基盤と収益源を着実に強化



ファイナンス事業での施策実行

経営効率を維持しつつ、事業拡大に取り組む

- ・ タイ地方都市への営業展開にさらに注力
 - ・ バンコクに次ぐ人口を持つ、東北部を中心とした地方都市への営業展開を積極的に展開。継続的な営業施策で取り扱いディーラーの開拓等に注力
- ・ アップルインターナショナル社との資本業務提携
 - ・ 3月12日タイ国内で自動車オークション事業でシェア1位を誇るアップルインターナショナル株式会社（東証マザーズ）と資本業務提携合意を発表。
 - ・ グループリースとのオートバイオークション事業における協業で今後の収益貢献に期待。

タイ経済成長を背景に、事業は拡大へ



コンテンツ・物販事業の施策実行

- ・ 組織統合により経営体制の効率化
改革は最終フェーズへ
 - 国内子会社の吸収合併
 - ・ 国内子会社エンジン、スピニングを7月1日付で吸収合併
 - ・ 過去2年半の経営改革の仕上げとして、国内での事業部門を統合、組織はさらにスリムかつ高効率に
 - 下半期での全事業部門営業黒字化目指す
 - ・ カードゲームなど既存の高収益事業は堅調
 - ・ 不採算事業の圧縮、事業モデルの転換などを経て収益体質改善は進展
 - ・ 下半期での全事業部黒字化達成を目指す

事業集約で高効率経営と堅実な成長へ

トピックス： 持続的な成長を目指して ～堅実な組織作りと人材育成への取り組み～

- 2010年9月期初より新人事制度を試験導入
 - ・ 給与テーブル、職位および職級の明確化により社員のキャリアプラン形成を支援
 - ・ 業績給および目標管理制度の導入により社員一人ひとりの成果が明確に給与に反映される仕組みを構築することにより個々のモチベーション向上へ
 - ・ 目標管理を中心とした評価制度の運用が進展、制度の定着と共に、社員の意識改革に向けた取り組みも推進中
- 幹部人材を中心に人材育成を推進中
 - ・ 外部教育機関の教育プログラムの試験導入を行なう等、幹部人材を中心とした育成強化を図る



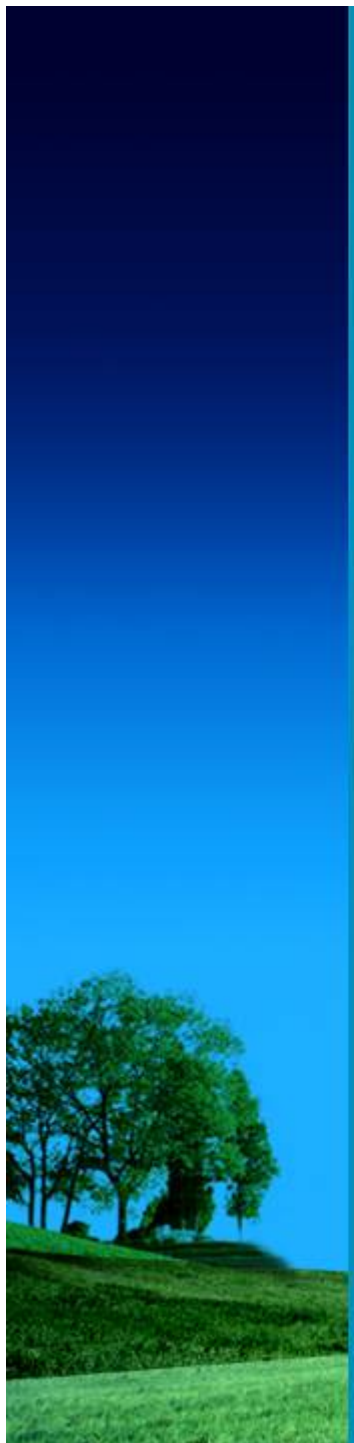
トピックス： 全従業員にiPadを賞与支給 ～事業環境変化への対応を推進～

－ 環境変化対応へ意識付けを図る

- ・ 新メディアの登場により、出版・編集関連を中心に従来型のコンテンツ事業に関しては、今後急速な環境変化に警戒
- ・ いち早く社員の個々人の活用を促すことで、変化への対応に意識付けを推進
- ・ iPadを初めとした環境変化の中では、携帯電話向け電子書籍制作など新規事業として取り組んできた事業のノウハウを活用も。危機を機会に変えるべく社員の積極的な挑戦を促す

－ ワークスタイルの変革への実験

- ・ 私的な利用とともに社内のペーパーレス化、コミュニケーションツールとしての可能性を模索中
- ・ クリエイティビティを生かした、組織の活性化に期待

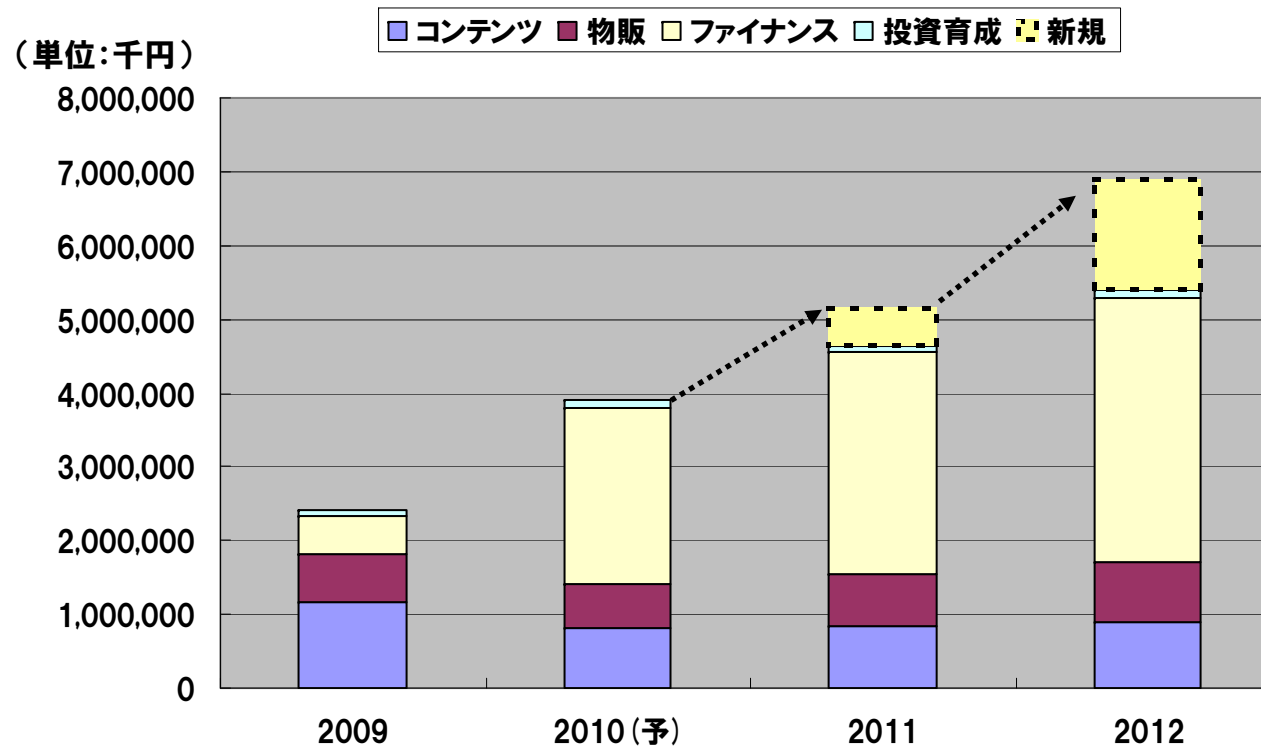


業績予想と株主還元方針

今後の事業拡大イメージ

2010年度以降は、主に東南アジアの事業を中心として拡大を図る

- コンテンツ、物販事業は再編完了。今後は堅実に年5%程度の成長率を維持
- ファイナンス事業は 地方でのシェア拡大に注力し、年10-20%の成長へ
- 投資を初めとして新規事業領域にも積極的に取り組み



2010年9月期通期連結業績予想

(単位:百万円) 2009年9月期実績 2010年9月期上半期実績 2010年9月期業績予想 対前年比／進捗率

売上高	2,417	1,871	3,900	161.4%
				48.0%

営業利益	137	310	840	613.1%
				36.9%

経常利益	322	291	800	248.4%
				36.4%

当期純利益	204	185	450	220.6%
				41.1%



株主還元に関する方針

安定的な評価確立と株価水準の回復を目指す

- 中長期でも業績伸張と成長性に基づいた評価改善を
- IRについても体制強化を推進中。6月よりYahoo!ファイナンスでの企業情報、ニュースリリース配信を開始

配当でも着実な還元方針を継続

- 2009年9月期に4期ぶりの復配
- 今後も事業成長と継続的な利益成長に見合った配当額の見直しを行ない、安定的に株主還元を実施する配当政策を目指します





ありがとうございました

弊社IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウェッジホールディングス
経営管理本部

TEL: 03-5217-0721

FAX: 03-5217-0722

wedge-ir@wedge-hd.com

<http://www.wedge-hd.com>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。